

# 広島市医師会運営・安芸市民病院の建替えについて

令和 2 年 8 月

広島市健康福祉局医療政策課

# 安芸市民病院の建替えの概要

- ・ 広島市医師会運営・安芸市民病院は、一部施設を除き、建築後約40年が経過して建物の老朽化が進んでいることから、病棟等の建替えを計画している。
- ・ 建替えに当たり、広島医療圏及び安芸市民病院の診療圏である安芸地区（安芸区及び安芸郡4町（府中町、海田町、熊野町及び坂町））の状況や地域医療構想で取り組む将来の医療機能別の必要病床数などを踏まえ、病床等の編成を次のとおりとしたいと考えている。

現在の病床編成	
一般病床	80床
（うち急性期病床	40床）
（うち地域包括ケア病床	20床）
（うち緩和ケア病床	20床）
療養病床	60床
合計	140床



建替え後の病床等編成案	
一般病床	100床
（うち急性期病床	40床）
（うち地域包括ケア病床	40床）
（うち緩和ケア病床	20床）
療養病床	0床
合計	100床

介護医療院	40床
-------	-----

# 1 安芸市民病院の現状

## (1) 病院の沿革

広島市医師会運営・安芸市民病院は、昭和8年に広島市立畑賀病院として発足した。昭和22年に厚労省に移管され国立療養所となった後、平成13年に再び広島市に移管され、広島市医師会に運営を委託して開設した。

## (2) 診療科目

内科、呼吸器科、循環器科、小児科、外科、リハビリテーション科 計6科

## (3) 病床数 140床

一般病床 80床（うち、地域包括ケア病床20床、緩和ケア病床20床）

療養病床 60床

## (4) 外来患者数（令和元年度）

	外来患者数	うち救急患者数	うち人工透析患者数
年延(人)	41,476	2,603	4,585
一日(人)	172.8	10.8	14.6

※ 救急患者数は、通常の開院時間外に受診した患者の数

※ 救急患者は人工透析患者を含む

## (5) 入院患者数（令和元年度）

	一般病床 (80床)	うち地域包括ケア病床 (20床)	うち緩和ケア病床 (20床)	療養病床 (60床)	うち人工透析患者	合計
年延(人)	27,084	6,848	6,436	21,503	4,190	48,587
一日(人)	74.0	18.7	17.6	58.8	11.4	132.8
病床利用率(%)	92.5	93.6	87.9	97.9	—	94.8

## 2 安芸市民病院患者数の地域別分布及び将来推計

安芸市民病院の地域別患者数（令和元年度）

	入院		外来	
	患者数	構成比	患者数	構成比
安芸区	27,228人	56.1%	31,275人	75.4%
府中町	3,773人	7.8%	486人	1.2%
海田町	7,379人	15.2%	3,825人	9.3%
熊野町	2,249人	4.6%	144人	0.3%
坂町	1,233人	2.5%	144人	0.3%
<b>安芸地区計</b>	<b>41,862人</b>	<b>86.2%</b>	<b>35,874人</b>	<b>86.5%</b>
広島市(安芸区以外)	4,091人	8.4%	1,667人	4.0%
その他	2,634人	5.4%	3,935人	9.5%
合計	48,587人	100.0%	41,476人	100.0%

入院患者の86.2%、外来患者の86.5%が安芸地区の患者である。

外来患者数は、2020年頃をピークに減少する見込み。入院患者数は、2025年頃まで増加し、その後減少する見込みだが、必要病床数は2035年頃まで概ね140床程度必要になる見込み。

安芸市民病院の推計患者数（1日当たり）

	2019年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
外来患者数	172.8人	183.1人	177.1人	172.0人	166.1人	161.0人
入院患者数	132.8人	132.4人	137.8人	134.7人	127.8人	122.9人
必要病床数	142床	142床	148床	144床	137床	132床

※国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」等の資料から推計

※必要病床数は病床利用率を過去5か年平均(93.3%)としたのもの

### 3 安芸市民病院の病床の方向性

広島県地域医療構想における将来の必要病床数について

- ・ 2025年（令和7年）には団塊の世代が75歳以上となり、広島県では人口の3割以上が65歳以上の高齢者となることから、現在の医療・介護サービスの提供体制のままでは、十分な対応ができないことが見込まれている。

病床機能報告による病床数と令和7年における必要病床数

構想区域	医療機能	平成26年度 病床機能報告	令和7年 必要病床数
広島二次医療圏	高度急性期	2,858	1,585
	急性期	5,591	4,242
	回復期	1,400	4,506
	慢性期	4,213	2,730以上
	病床計		14,062

- ・ このため、将来のあるべき医療提供体制は、地域医療構想の基本理念である地域完結型の医療提供体制の構築を基本とし、
  - ①各病床の機能を明確にし、不足する医療機能を充実させ、病床機能の分化を推進するとともに、
  - ②医療、介護、介護予防、住まい、生活支援のサービスが包括的に確保される地域包括ケアシステムの構築を目指すことにする。

## 4 安芸市民病院の病床の現状と在り方

- (1) 急性期病床
- (2) 地域包括ケア病床
- (3) 緩和ケア病床
- (4) 療養病床（介護医療院への転換）

## 4 安芸市民病院の病床の現状と在り方

### (1) 急性期病床

安芸地区の主な病院の救急医療の状況（平成30年度）

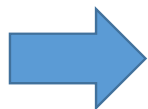
病院	休日に受診した患者延数（人）	夜間・時間外に受診した患者延数（人）	救急車の受入件数（件）
安芸市民病院	1,589	1,489	232
済生会広島病院	1,421	824	848
マツダ病院	1,319	1,432	2,338
松石病院	295	459	525

安芸地区と広島医療圏全体の救急医療の状況（平成30年度）

病院	休日に受診した患者延数（人）	夜間・時間外に受診した患者延数（人）	救急車の受入件数（件）
安芸地区計	4,724	4,257	4,038
人口10万人当たり人数	2,367	2,133	2,023
広島医療圏計	69,618	83,122	49,516
人口10万人当たり人数	5,084	6,070	3,616

（出典：広島県 平成30年度病床機能報告）

- ・ 安芸市民病院の休日の受入件数及び夜間・時間外の受入件数は、安芸地区の主な病院の中で1番目となっている。
- ・ 病院群輪番制病院は安芸地区では安芸市民病院とマツダ病院の2院のみである。
- ・ 人口10万人当たりの受入れ人数は、安芸地区は広島医療圏全体に比較して、3割から6割程度と少ない。



安芸地区での救急の受入れが十分出来ていない中、広島市民病院や県立広島病院等の基幹病院の負担がこれ以上重くなり、支障をきたすことがないように、急性期の一般病床40床は維持する必要がある。

# 4 安芸市民病院の病床の現状と在り方

## (2) 地域包括ケア病床

広島医療圏南部地域の高齢化率の推移

	2015年	2020年	2025年
広島医療圏南部地域	23.2%	24.9%	25.7%
うち安芸地区	25.3%	27.0%	27.6%
広島市安芸区	24.6%	26.5%	27.3%
府中町	23.1%	24.8%	25.5%
海田町	22.9%	24.5%	25.0%
熊野町	33.2%	35.7%	35.9%
坂町	29.2%	29.7%	28.8%

※高齢化率は総人口に占める65歳以上人口の割合

※2015年は国勢調査による

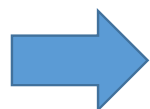
※将来推計人口は国立社会保障・人口問題研究所による(2018年3月推計)

安芸地区は南部地域全体より高齢化が進んでいる

入院紹介患者数上位5医療機関(令和元年度)

医療機関	紹介患者数
広島大学病院	70
県立広島病院	62
マツダ病院	58
広島市民病院	50
秋本クリニック	26

高度急性期、急性期を担う病院からの紹介が多く、現在もポストアキュート機能を担っている。

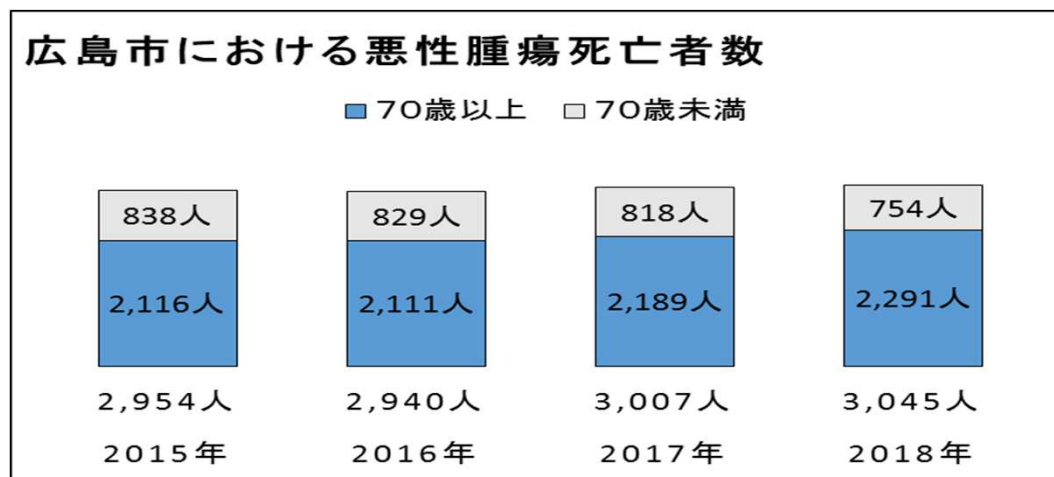


高齢化が進む中、地域包括ケアシステムの構築が喫緊の課題であり、かかりつけ医が行う在宅医療を支援する機能(サブアキュート機能)や、高度急性期を終えた患者が在宅医療に向けて円滑に移行するための医療を提供する機能(ポストアキュート機能)を強化するため、地域包括ケア病床を20床増床し、40床とする必要がある。



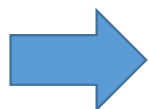
## 4 安芸市民病院の病床の現状と在り方

### (3) 緩和ケア病床



(出典：人口動態統計に基づく集計)

- ・ 広島市の悪性腫瘍死亡者数は増加しており、70歳以上の占める割合も年々増加している。
- ・ 安芸地区には他に緩和ケア病床がなく安芸市民病院の同病床は85%以上の稼働率となっている。



高齢化に伴い、緩和ケア病床の医療需要の増加が見込まれることから、緩和ケア病床は引き続き20床を維持する必要がある。

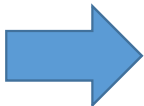
## 4 安芸市民病院の病床の現状と在り方

### (4) 療養病床（介護医療院への転換）

入院患者の年齢等（令和2年4月末時点）

	人数	平均年齢	平均在院日数
65歳以上	53人	84.1歳	525日
65歳未満	7人	54.6歳	1,164日
合計	60人	80.7歳	600日

- ・ 平均年齢は80.7歳と高齢であり、平均在院日数も約1年8か月と長期に渡っている。
- ・ 65歳未満の入院患者の平均在院日数は、約3年2か月と長期に渡っている。



療養病床では、医療の必要な回復の見込みがはっきりしない患者や、寝たきりの患者など在宅復帰が困難な患者を多く受け入れており、今後の高齢化の進展を踏まえれば、一定の医療機能も確保しつつ、介護ニーズに重点を置く方向へ切り替える必要がある。このため、今後の高齢化に伴い増加が見込まれる慢性期の医療・介護ニーズへの対応策として平成30年度に創設された介護医療院に転換する必要がある。

なお、療養病床から介護医療院へ転換することで、広島県地域医療構想における病床削減にも資するものとなる。